



### 吉岡には 幼稚園から大学まであった!!

1955（昭和30）年頃、全国で昭和の大合併がありました。吉岡村は、近隣5ヶ村（御正・小原・吉岡・市田・吉見）合併の道を選ばず、熊谷市に編入しました。そこで、西に江南村、東に大里村ができました。1970年代から、地方史ブームが訪れました。まだ潤沢（じゅんたく）であった地方自治体は、こぞって自治体史を刊行しました。近隣の江南には、立派な村史や町史がありますが、吉岡にはありません。「牛後」（ぎゅうご）でした。ちょっと残念です。

そこで、身近な歴史の具材は、残された石造物にあります。中学校には、校門、健児が丘碑、校歌碑、海拔等の標識と共に、立派な熊谷高校定時制吉岡分校跡碑があります。

かつて、熊谷高校には、5校の定時制がありました。1948（昭和23）年開校した、本校、寄居分校（1959年～寄居高校）、深谷分校（1961年廃校）、妻沼分校（1981年廃校）、そして1949年に開校した吉岡分校（1982年廃校）です。

吉岡には、吉岡幼稚園（2018年閉園）・立正幼稚園、小・中学校、定時制高校、立正大学と、こんな小さな地域に全ての教育施設がありました。珍しいと思います。原（中学校周辺の台地）の地は、昭和の初期に村民により開墾され、「健児が丘」には、戦時中には青年学校が建てられました。戦後は、昼間は中学校（卒業生5,871名）、夜間は高校（卒業生520余名）として、地元民の「がっこう」の役割を担ってきました。この丘には、たくさんの先輩方の青春があったのだらうと想像すると、感慨深いものがあります。

9月の里山活動は、9月14日（日）に行われました。自治会の皆様、立正大学関係者、中学校関係者、PTA、個人ボランティアなど20数名とシルバー人材センター会員10名の参加者が、竹の間伐、雑木林や遊歩道などの下草刈りを行いました。お陰様で、清々（すがすが）しい林になりました。お疲れ様でした。

今回の活動に先立ち、今夏、中学校裏山で蜂の巣が2個発見されました。生徒や里山活動の安全のため、校長先生・教頭先生が、迅速に業者に依頼して、撤去を行ってくださったと伺いました。ありがとうございました。

また、前回7月の活動で、刈り払い機の飛石が駐車中の車の窓ガラスに当たり、関係者に多大なご迷惑をおかけする事案が発生しました。申し訳ございませんでした。深くお詫び申し上げます。再発防止の為、万全を期するつもりです。



1982 吉岡分校跡の石碑



1948 門柱



1996 健児が丘



竹切り学生三人組



斜面林の下草刈り



シルバー刈り払い隊

次回活動日

10月は休会(地区民体育祭の為)

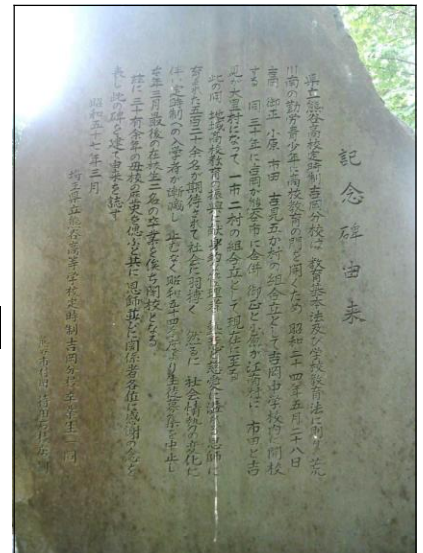
11月9日(日) 9:00~

里山整備を予定(吉中駐車場集合)



カラー版

熊谷市HPに掲載中!!



吉岡分校跡碑文

記念碑由来

県立熊谷高校定時制吉岡分校は 教育基本法及び学校教育法に則り荒  
川南の勤労青少年に高校教育の門を開くため 昭和二十四年五月二十八日  
吉岡 御正 小原 市田 吉見五か村の組合立として吉岡中学校内に開校  
する 同 三十年に吉岡が熊谷市に合併 御正と小原が江南村に 市田と吉  
見が大里村になって 一市二村の組合立として現在に至る

此の間 地域高校教育の振興に献身的な管理者 熱意と慈愛に溢れる恩師に  
育まれた五百二十余名が期待されて社会に羽搏く 然るに 社会情勢の変化に  
伴い定時制への入学者が漸減し 止むなく昭和五十四年度より生徒募集を中止し  
本年三月最後の卒業生二名の卒業を俟ち閉校となる

茲に三十有余年の母校の歴史を偲ぶと共に 恩師並びに関係者各位に感謝の念を  
表し此の碑を建て由来を誌す

昭和五十七年三月

埼玉県熊谷高等学校定時制吉岡分校卒業生一同

熊谷市村岡 持田石材店刻



# 散歩道の鳥たち



by Mr. Terayama

以前紹介した寺山氏より新たな写真をご提供いただきました。一部を紹介します。  
吉野川護岸工事による影響が、ちょっと心配です。



ノスリ



ダイサギ (シラサギ)



コゲラ

カワセミ



